

■ 河合塾テキスト「地理総合、地理探究（共通テスト対応）〈2025 完成シリーズ〉」演習問題 解説 ■

【第24講】

解答番号	正解	解 説	重要度
1	③	③：誤文。シベリアは、冷帯や寒帯気候がひろがり、ポドゾルやツンドラ土がみられ肥沃な土壌が分布しているとはいえない。綿花栽培は中央アジア地域が中心である。①：正文。クラスノヤルスクやブラーツクなどに大規模な水力発電所が建設されている。②：正文。日本のほか、中国や韓国などの企業が進出し、水産資源の加工工場が立地する。④：正文。カザフスタンでは石炭やウラン鉱、カスピ海沿岸地域では原油や天然ガスが産出され、パイプラインの建設も行われている。	★★
2	③	③：オイミヤコン。高緯度の内陸部に位置し北半球の寒極にあたる。冬季の冷え込みが厳しく高気圧も発達し降水量も少ない。①：ディクソン。北極海沿岸に位置するためツンドラ（ET）気候で、最暖月平均気温が0℃以上 10℃未満となる。②：サンクトペテルブルク。④：オムスク。ともに冷帯湿潤（Df）気候であるが、サンクトペテルブルクは海岸部に位置するため気温の年較差が小さく、オムスクは内陸部に位置するため気温に年較差が大きくなる。	★★★
3	②	②：誤文。市場経済が導入されると、所得水準の格差が生じやすい。外資系のファストフード店やサービス業は、おもに都市部に立地している。①：正文。市場経済導入後、社会・経済の混乱に乗じて大きな経済的利益を得る人々がいる一方、賃金を自由に決められるようになったため、富裕層と一般勤労者や年金生活者の間の所得格差が拡大した。③：正文。ソ連時代の国営農場（ソフホーズ）や集団農場（コルホーズ）は解体され、個人、組合、企業による農業経営に変わった。④：正文。大都市の住民は、週末や夏休みを都市郊外のダーチャで過ごす場合が多く、自家菜園で栽培される農作物は食生活を支えている。	★★
4	③	③：正しい。ネネツ人の居住する地域は、寒冷地で永久凍土が分布するため、農耕は行われず、トナカイの飼育や狩猟・漁労が行われている。①：誤り。ブリヤート人はモンゴル系の民族で、伝統的な住居はゲルであるが、近年は木造の家屋もみられる。寒冷な気候下であるため茅の生育は困難である。②：誤り。高床式の家屋は、高温多湿な熱帯地方の一部や、永久凍土の融解で建築物が傾くおそれのある寒帯・冷帯地方の一部にみられる。タタール人の居住する地域はステップ気候下などであり、これらどちらにもあたらない。④：誤り。ロシア人の多くは東方正教（ロシア正教）を信仰している。	★★
5	④	ア：ツンドラ気候の地域の南限。ツンドラ気候は、北極海沿岸とシベリア地方の一部の山岳地帯に分布する。イ：北極圏の南限。北極圏は、北緯 66.5° 以北の範囲をいう。ウ：連続した永久凍土の分布域の南限。永久凍土は、氷期に大陸氷河が発達しなかったおもにシベリア地方に分布する。エ：針葉樹林（タイガ）の分布域の南限。針葉樹林は西部や中国の東北地方にも分布する。	★★
6	③	③：B（サンクトペテルブルク）。首都モスクワに次ぐロシア第2の都市である。①：C（ヌイダ）。少数民族のネネツ人が居住している。②：D（ウラジオストク）。極東地方の中心都市のひとつで、シベリア鉄道の起点・終点となっている。④：A（ソチ）。温暖湿潤（Cfa）気候下で温泉も湧出するロシア随一の観光保養都市となっている。	★
7	②	イスラーム：カ。カザフスタンなど中央アジアに近接した地域である。タタール人はトルコ系民族。キリスト教：ク。ロシア人の多くは、キリスト教東方正教を信仰している。仏教：キ。チベット仏教の信者が多いモンゴルに近接した地域である。ブリヤートはモンゴル系民族。	★★

8	③	③：誤文。市場経済に転換したことによって，国営企業の民営化や新しい企業の設立が行われた。ソ連時代の各分野の制度を引き継いだ企業は，それらの制度を維持するため，経済的効率性が重視されるようになり，企業間や業種間で労働者の賃金に格差が生じるようになり，貧富の差は拡大している。①：正文。ロシアの都市住民は，郊外に自家菜園付きの簡素な別荘（ダーチャ）をもつこともあり，自給用に野菜や果実を栽培している。②：正文。1991 年のソ連崩壊による市場経済への移行の際に，物価の高騰や失業率の上昇など経済の混乱を招いたため，6 年間にわたって GDP（国内総生産）の減少が続いた。④：正文。2000 年代からの原油の国際価格の高騰によって経済成長を遂げたが，原油や天然ガスなどの輸出に経済を依存しているため，資源価格の変動の影響を受けやすく経済が不安定になりやすいといえる。	★
9	①	人口密度：サ。西部のヨーロッパロシア地域で高位，東部のシベリア地域で低位となる。人口 1 人当たりの農業生産額：シ。肥沃な土壌のチェルノーゼムが分布している黒土地帯で高位となる。人口 1 人当たりの鉱工業出荷額：ス。鉱産資源が豊富なウラル山脈周辺やシベリア東部で高位となる。	★
10	⑤	A（モスクワ）：ク。「食品，繊維など」，「工業が総合的に発達」などから判断できる。大消費地であり食品や繊維などの大都市型工業が発達する。B（ノヴォクズネツク）：力。「露天掘り炭田」などから判断できる。付近にロシア有数のクズネツク炭田がある。C（ヤクーツク）：キ。「炭田，天然ガス田」，「毛皮の交易」，「皮革工業」などから判断できる。狩猟などによる動物の毛皮の交易や皮革工業が立地している。	★★